

1. 自己評価及び外部評価結果

作成 平成26年11月14日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670300393
法人名	社会福祉法人溪仁会
事業所名	グループホームふれあい
所在地	鹿屋市下祓川町1805番地 (電話) 0994-40-2588
自己評価作成日	平成25年10月12日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NP0さつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成26年11月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社会福祉恵仁会の事業所の中では小さな施設ではあるが、母体の鹿屋長寿園や隣接する医療法人青仁会の池田病院に囲まれ、緊急時は、往診できる環境に恵まれ、入居希望者が多い。利用者様状況としては要介護度の重度化はしてきているが、本人のもてる能力を発揮していただけるように支援している。「環境を変えないで最後まで支援していただきたい」要望にも応え、ターミナルケアの実践も行っている。日常的には畑もあり、季節を感じながらの散歩や、母体の力を借りての外出支援。音楽療法。理学療法士のアドバイスを受けながら機能の維持向上にも力を入れている。食生活の支援は特に大切にし、栄養士のアドバイスを受けながら健康の維持管理を行い毎日の生活の中には利用者も職員も笑顔が絶えない。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・当事業所は、社会福祉法人が運営するグループホームであり、隣接して同系列の特別養護老人ホーム・デイサービスセンター、近隣には小規模多機能ホームなどの介護サービス事業所があり地域の高齢者福祉の一端を担っている。

・母体は、医療機関で24時間体制があり緊急の往診や終末期の協力体制が構築され日常的に関係性があるため、本人、家族の希望や意向を踏まえ支援する体制があり看取りの実績もある。また、重度化に伴い入浴支援も職員3人体制にするなど手厚い介護を展開している。

・法人は、大隅地区介護事業所連絡協議会の役職を担っており、セミナーや交流会の開催、同業者との交流や交流研修にも力を入れている。ホームでも福祉体験学習の受入れ、初任者研修の講師依頼を受けるなど社会貢献している。また、市とともにキャラバンメイト連絡会に参加し、認知症の理解のためにセミナーを開催するなどしている。法人は、職員教育にも熱心に取り組んでおり、職員は年2回の自己評価を実施、人事考課システムがあり、個人面談も実施されている。また、新人研修、経験年数に応じて資格取得を支援するなど職員の勤務意欲を引き出している。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は運営上もっとも重要な根幹である。職員とも理念を共有しながら地域に根差した支援を目指し、実践している。	開設当初からのホームの理念は、“あなたの立場になって”といつも職員の気持ちの中にあり、本人主体のケアに取り組み、地域との関係性を重視した理念になっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、グループホームの事業所の特色を生かし、情報の提供やアドバイスをを行っている。中学生の職場体験学習は認知症の学習を行っている。	地域とは、町内会の奉仕作業や地域の運動会への参加などを通じて日頃から交流している。また、小学校で車いす体験教室、中学生の福祉体験学習を受入れ、認知症の勉強会を開催している。菜園栽培は、ボランティアの協力を得ている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	民生委員や町内会長と交流を図りながら認知症の家族に対しての援助の方法の相談、支援に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の代表や地域包括支援センター、鹿屋市職員の出席の元、問題提起を行い、それぞれの立場から意見をいただき、問題解決の糸口を見つけている。そのことはサービスの向上に役立っている。	定期的な会議では、メンバーとの積極的な意見交換やアドバイスや助言などもらい、出された意見はよりよいサービスの向上に活かしている。管理者は、家族代表やメンバーを固定化することがないよう検討したいと考えている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の高齢福祉課や地域包括支援センターとはインターネットでやり取りとなっている。研修会等も頻回に行われ、質の向上に役立っている。	市担当者とは、日頃からメールや面談にて連絡し、相談や指導・助言をもらい、地域包括支援センターを通じて認知症の理解を深める啓発活動の一役を担っている。また、徘徊模擬訓練への参加、キャラバンメイト連絡会にて協力関係があるなど関係性を構築している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はもちろん。身体拘束に対しては開所以来行ったことはない。毎月のミーティングの中で確認を行っている。たまに「帰りたい」と外に出て行かれる入居者様には納得されるまで付き添い、対応している。	施錠せず自由な暮らしを実践しており、玄関には鈴やチャイムを設けているが、音に頼ることがないようにケアしている。また、職員は毎月1回ミーティングで事例を用いて検討したり、法人から資料を取り寄せ、知識を積み重ね研鑽するなどして身体拘束の弊害について周知徹底し、外出傾向の方には安全面に配慮して本人主体のケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても身体拘束と同様に毎月のミーティングで共通認識を行っている。また、虐待や権利擁護は法人の中でも必ず参加しなければいけない研修である。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修は包括支援センターが主催で行う研修には必ず1名参加している。家族からの相談にも応じているがこの制度を利用されている家族はいない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際は重要事項の説明をし、契約の締結を行っている。また、料金の改定の際は家族会を開催し、説明と同意を得ている。家族の面会時は声掛けを行い、要望や質問等をお聞きしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱を設置し相談苦情委員会を設けている。家族等の面会時は声掛けし、日常生活の報告をしながら、利用者様からの声はないかを必ずお聞きしている。意見は法人内の会議や毎月のミーティングで話し合い運営に反映させている。	本人には、ケアの中で意見や要望など聞き取る機会を設けており、家族は、年度末にアンケート調査をおこない、家族会で話し合ったり面会の都度意見を拝聴するなどしている。遠方の家族には、定期通信や手紙などで意見を聞くようにしている。出された意見は、ミーティングで話し合い、法人の全体会議に報告して要望に沿うよう努め運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の施設在宅会議での内容の説明や報告を行うとともに、日常的に、職員の意見や提案は尊重し、受け入れ、見直しを行っている。	管理者は、職員と直接面談して意見を聞く機会を作り、ミーティングなどで話し合っている。また、職員は年2回自己評価し、法人は、人事考課システムも考慮している。管理者は、初任者研修講師でもあり、職員採用についても人材確保に尽力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回は自己評価の提出と共に面接を行い、職員の意見を吸い上げている。その能力に応じ、昇格、昇級制動を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員。経験年数に応じた研修に参加して頂くことにより、職員のスキルアップを図っている。また、業務の中で生じる適切な介助については個々の癖と体力を考慮し、適宜アドバイスを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は大隅地区介護事業所連絡協議会の役職を担っており、セミナーや交流会を開催。同業者との交流を得る機会としている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時は本、人家族に見学に来て頂き、ケアマネージャー。関係者から情報を得ることにより、本人が不安を感じることなく、入居できる環境を整えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に対してはふれあいの生活を十分説明し、納得頂くように努めている。面会時間、電話の受付等、時間を定めず、希望により宿泊して頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用される本人の生活歴や希望をお聞きし、ケアプランに反映させている。本人が何を望んでいるかを見極めながら、職員全体で話し合い、援助している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と職員は模擬の家族であることから、負担にならない手伝いをお願いし、「ありがとう。助かります」の言葉でねぎらい、利用者様の達成感を引き出している。それが笑顔の根源と考える。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来宅時はお茶で、おもてなしすることは勿論、写真に収めながら家族との絆を大切にすることを心掛けている。毎月写真入りのお便りで近況をお伝えもしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方が面会に来られない方に対してはこちらから出向いている。美容室も昔からの関係を大切にお連れしている。	定期的に自宅に帰る利用者もあり、家族に事前に連絡し近所の方に集まってもらいお茶のみや歓談ができるよう送迎をお手伝いしたり、馴染みの美容室にも外出支援している。毎日日参されるボランティアの方は、利用者の話し相手などホームの手助けになっている。また、病院のついでに立ち寄る知人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶は居間で提供している。利用者様は性格もそれぞれ特徴があり、性格の合う人同士近くに座れる配慮は行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても職員は病院や施設を訪ねることもある。家族との関係は保ち、相談や支援に努めている。家族は気軽に訪ねてくださっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分で希望を伝えられる方に対してはケアプランに反映している。自分で訴えることのできない方に対しては家族の希望や本人の表情を確認しながら笑顔が引き出せる援助に努めている。	ケアの中で本人の言葉やしぐさなどから思いを共有したり、家族から情報を得て連絡帳を活用するなどし、職員間で情報の共有化を図っている。職員は、利用者の笑顔が引き出せるケアに取り組んでおり、常に本人の思いに寄り添うケアを実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様は過去の生活歴や暮らしが大きく影響することから、家族や知人が来宅された折は情報を集め、職員間で共有し援助に活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全体が個々の利用者の把握に努め、食事、排泄、睡眠等引き継ぎがスムーズにできる書式を活用し、毎日を快適に暮らせるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画においては本人、家族の意見を反映している。モニタリングについても毎月全員で行い、職員やPT・訪看等の意見を取り入れながら、利用者が楽しく生活できるような介護計画となっている。	本人や家族の意向を反映した介護計画を作成しており、モニタリングは月1回実施し、カンファレンスを行ない随時見直して、サービス内容など検討している。職員は、常に計画を念頭に置いてサービス提供に努めている。また、遠方の家族には計画書を郵送して内容を説明するとともに意見を拝聴し、同意を頂くようにしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を大切にし、バイタル表を活用し、毎月ミーティングでの話し合い。日々のヒヤリハットやアクシデントも職員間情報の共有を行い、素早い対応で事故や病気を引き起こさないように実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	長く生活されている利用者様にとって家族の状況が変わることもあり、全てをひっくるめての援助が必要になっている方には、職員は常に親身になり、他のサービスを紹介利用もされている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との行事は大切にしているが、利用者の重度化で参加できないことも多い。火災避難誘導訓練には地域の協力を得ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診に関しては本人・家族の意向を大切にしている。必ずしも家族は付き添えないので職員が付き添うことが多い。	本人や家族が希望するかかりつけ医になっており、受診の際は職員が付き添い家族と連携している。皮膚科や眼科などの他科受診、訪問看護ステーションなど、適切な医療が受けられるよう連携や連絡体制が構築されている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	恵まれた環境の元。看護職員はいないが週1回訪問看護を活用し利用者の個々の健康状況を伝え、不安な方に対してはアドバイスを受け、受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は入院サマリの記録と共に情報提供に努めている。また毎日様子をうかがうとともに、洗濯の援助を行い、看護師と親しく情報の交換に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の重度化については、入居時に家族の意向をお聞きしている。しかし、家族の意向もその時々において変化することから、本人の様子を写真に収め、日常生活の様子をお知らせしている。終末期は訪問看護師や主治医と連携した援助に取り組んでいる。	入所時に、「重度化および看取り対応に係る指針」を説明し、その後段階に応じてホームででき得る最大のケアについて説明をおこない、終末期はその都度同意書を交わすことにしている。看取りの実績が今年に入って2回あり、主治医や訪問看護師との連携のほか、職員には資料を読み込むなどの研修会を徹底し、夜勤者の心のケアにも配慮してチームケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の研修では年に1回、消防署職員による心肺蘇生の方法を学んでいる。マニュアルの確認や緊急時の連絡も壁に明記している。その他感染症の応急処置も定期的に訓練している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の火災避難誘導訓練を行っている。また、訓練に際しては地域住民の協力も得ている。	昼夜想定の方災避難訓練を実施している。訓練には、郵便局職員、スーパー勤務者、近隣住民などの参加がある。町内会長には、普段から地域の協力体制について、運営推進会議などでも呼びかけているが、管理者は実際の協力について具体的な役割分担など今後検討する予定である。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は言葉のかけ方で周辺症状が悪化することを心得ている。優しく、ユーモアを交えた声掛けに努めている。	誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしないよう、言葉の使い方や声かけには特に注意するよう心がけている。新人教育には特に力を入れており、年長者として敬意を払いケアにあたるよう勉強会で研鑽し、日々のケアに取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	パーソンセンタードケアを目指していることから、本人の思いを大切にし、自己決定できない方に対しては、表情から思いをくみ取り、「どうしたいのか」を推測して援助している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは大まかに決まっているが流れにとらわれず、本人の体調を考慮し、柔軟に対処している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	自分で表現できる方に対してはその思いをくみ取り援助しているが、伝えられない方に対しては家族の思いや動きやすく窮屈でないおしゃれの提供をしている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を大切にしながらできる機能に働きかけ、下ごしらえや盛り付けをお願いすることもあるが、重度化で限られた利用者が負担にならないように配慮している。	献立は、その日の調理担当者が食材をみて決めている。夜勤者は、前日に調理の下ごしらえをするなど職員間の協力体制がある。菜園の野菜の活用や差し入れが家族などからあり、誕生会、お彼岸などの行事食、外食も年1回程度実施している。家族が面会に来られた時は、食事を準備して家族も交えて食卓を囲むなど支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月体重測定を行い、体重減少の利用者様は病院受診を行ったり、栄養の見直しのために栄養士に相談している。水分量の把握に努め牛乳の苦手な方に対してはココア等で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは全職員が病気の予防のためにも最重要項目ととらえてしっかり行えている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者のオムツ代は自己負担であることから、可能な限り、トイレでの排泄支援を行っている。定期的にトイレでの排泄支援をすることで下肢の強化を図っている。	排泄チェック表でパターンを把握し、利用者に合った声かけをして、トイレで排泄ができるよう支援している。夜間は、ポータブルトイレを活用する利用者もいるが、転倒防止など環境を整備して排泄の自立支援をおこなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便はバイタル表に記入している。職員全員が排便の重要性を認識し、食事・水分の摂取量の把握に努め、排便困難な利用者には緩下剤の利用。病院受診の支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は本人の希望や体調を考慮し、援助している。入浴は皆様好きなので、午後行事のある時は午前中に行うこともある。	午後から入浴を楽しんでもらっているが、冬場はゆずやレモングラスなど入れて入浴がさらに楽しみになるよう工夫している。重度化してきていることもあり、職員体制を検討して安心・安全な入浴支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前中の日光浴は夜の安眠を誘うので可能な限り出かけている。昼寝に限らず、体調の思わしくない方に対してはゆっくり居室で休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に対して疑問に思ったときはや薬剤師に相談できる環境にある。職員は薬の効果や必要性を認識しながら援助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は皆優しく9名の利用者に声掛け援助できている。介護度が1から5まで。と、一人ひとりの役割も違う中、それぞれの能力に合わせ、会話・手伝い・食事の援助が出来ている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車椅子の利用者が多く、外出支援は難しくなっている。母体の職員・車の提供で初もうで等は行っているが、日常的な外出は重度化のために頻度は少なくなっている。皮膚科・眼科受診等は車いす対応の車で行えている。	希望があれば近所を散歩などして気分転換している。恒例の初詣、自宅へ帰宅支援、病院受診の手伝いなど支援している。また、家族と墓参り、自宅訪問などされる方もおられ、積極的に外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	重度の利用者様が多く、入所当初よりお金を利用される方が少ないのが現状である。買い物に誘うが「面倒」と。こずかいを預かってはいるが誰も買い物には行かない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族へ電話をしたい希望の人に対しては支援している。こちらから「電話をしましょうか」にも拒否的。原因は耳が遠いからと考える。手紙も月に1度こちらから近況報告をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に温度・湿度に配慮し、不快にならないように気配りしている。可能な限り季節の花を生ける努力はしている。居室で休みたくない利用者は居間のソファで休んで頂いている。	温度や湿度管理がされた室内は採光もあり、廊下は広く椅子やソファがあちこちに置いてあり、思い思いの場所で過ごせるよう工夫してある。ピアノもあり、演奏を楽しめる。テラスは、避難経路にもなり、中庭には、紫陽花、ツツジ、くちなしの花々が季節感を与えている。壁には、福祉体験学習実習生のお礼の手紙や利用者の写真などが掲示されている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファベッド・廊下にソファを置き、自由に過ごせる空間はあるがほとんどが車椅子のために自分で移乗されることはない。職員と歩行練習時、休憩をするためにソファで休まれる姿は微笑ましい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時家族にお願いし、なじみのものを持参して頂いている。本人の身体的状況でベッドの配置等は職員が決めることもあるが家族には、いつでも泊まれることをお伝えしている。	扉に暖簾をしたり、テレビ、仏壇、クリアボックスなど馴染みの物を持ち込み、落ち着いた生活を実現している。また、いつでも家族が泊まったりくつろげるようソファなどが準備してある。明かりが、本人の手が届くよう配慮されている部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや非常口には表示があり、利用者それぞれの身体能力に合わせたポータブルトイレや介護用品を駆使している。特に排泄に関しては手すり、踏み台等を利用し、自立した生活が送れるように支援している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない